

（店主が綴る、エッセイのようなもの）

くちびるに珈琲を。

the sun in mind, the coffee to lips.

部屋と大仏と私

今年の年越しは奈良の東大寺で迎えたんだけど
小学生以来ぶりに大仏を拝んできただんです
小学生の時の感想なんて「でかー！」くらいのもんだったんだけど
そこは大人

これを創るのにどれだけの思いと技術
そして時間や根気を費やしたんだろうか
なんて耽つてました

これまで以上に時代の流れや変化は激しくなっていくんだろうけれど
長く残るものやそこに在り続けるものって
向き合う気構えや腰を据えることが必要だと思うし
なかなか形にならなくとも
付き合っていく「鍛錬」が肝心だなと

劇的に変わるものなんていつの間にか廃れていって
時間をかけて成熟したものこそ
無駄がなく芯が通っているようと思う

ド派手に変わっていくものに目を奪われがちだけど
変わらないものに目を向けて
そこから学べることを大切にしていきたい



夢叶う。



ピーコックマガジン 2022年2月号(隔月発行)

発行:喫茶ピーコック 大阪府豊中市藤原元町1-1-6 TEL:06-6864-0317

COFFEE & CURRYHOUSE PEACOCK Issue.10

僕の好きな
言葉

速く走ろうなんて事は考えるな、
自分の走りをする事だけを考えたほうがいい。

ウサイン・ボルト

□ 今回の一冊

夢を叶えるゾウ



水野 敬也

2007年刊行の大ベストセラー。インドの神様ガネーシャ(大阪弁)の教えにより平凡なサラリーマンの人生が変わっていく物語。ドラマやアニメにもなったんだけど、テンポの良いコントみたいな展開でスラスラ読んでいけるので書籍版がおすすめです。自己啓発本はなんだか説教臭いっていう人はぜひひぜひ読んでみてくださいな。

■ 僕らの町のお店

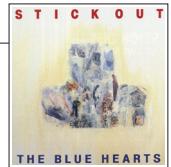
サルビアジュニア

■ 大阪府豊中市服部元町1丁目3-15 Leiwa服部天神201
① 10:00~19:00
■ <https://www.i-salvia.co.jp>
■ info@i-salvia.co.jp

本と音とお店のはなし。

□ 今回の一曲

夢



THE BLUE HEARTS

やっぱり「夢」といえばこの曲。中高生の頃からよく聴いていました。あれもしたいこれもしたい! 大人のレールには乗らないぜ! と毎晩ドキドキしてたのを覚えています。あの頃に描いてた両手じゃ抱えきれない夢、どれくらい叶えられたんだろうか。これからも「俺には夢がある!」と堂々と言える大人でいたい。

SALVIA
サルビアジュニア



「多様性を認め、力に変える社会を創る。」を掲げて放課後等デイサービス・児童発達支援の教室を運営する株式会社サルビア。遊び友達でもある代表の市橋くんとは地域活動やsalvianの編集、「ローカル×ソーシャル」と

は何か」みたいな話でいつも盛り上がってます。
やるぞと決めてギアが入った時のエネルギーと集中の緩急が激しくて、そこが彼の魅力なんですね。



for HATTORI City Boys & Girls

夢叶う。



今回の表紙にもなっている「salvian」。友人である株式会社サルビアの市橋くんが発行した冊子なんだけど、ライターとして僕も参加しています。元々はこのピーコックマガジンのようなものを作りたい! ってところから始まつたので企画編集チームはそのままに、市橋くんが描きたい世界観を形にするつていうテーマのもと制作しました。創刊号は「喫茶ピーコック上芝英司(僕のことです 笑)」特集ということでセルフライティングになつたんだけ

ど、コピーヤリード文などあらためて書き起こして。でもこうやって、自分のことを客観的に記事にするつて新鮮だつたし、新まに、市橋くんが描きたい世界観を形にするつていうテーマのもと制作しました。

もうかれこれ20年以上文章を書いてるんだけど、これまで自分のブログや冊子や制作物のために書くつていうことばかりだつたんですね。

もうかれこれ20年以上文章を書いてるんだけど、これまで自分のブログや冊子や制作物のために書くつていうことばかりだつたんですね。受けた時に「あ! 夢が叶つた!!」って思つたんです。それこそ20年前半の頃、村上春樹や糸井重里に憧れて「文章を書く仕事をしたいな」って思つていた時期もあつたし、雑誌や街中の広告コピーを見ては「うまいこと言うなあ!」と反応しまくつていたので。

特にこれまで「ライター」やつてします!」とか「書くお仕事受け付けてます!」って言つたこともないし自分で好き勝手に書いてきただけなんだけど、去年始めたピーコックマガジンを見たデザイナーさんから「これ編集者とかライターの仕事やん」とか言われたり。そんなこんなで自己紹介文や広

バンドに明け暮れていた時代は「メジャーレーベルと契約してこそプロ!」みたいな気持ちで頑張つてたし、バンドを辞めた時なんて「夢破れた」みたいな気分だつたけど、好きこそもの上手なれとでも言つか、続けていことばかりだつたんですね。

バンドを辞めた時なんて「夢破れた」みたいな気分だつたけど、好きこそもの上手なれとでも言つか、続けていことばかりだつたんですね。

告コピー、ちょっとしたテキストの代筆をお願いされるようになつてきていたんですね。

上芝英司 | 1979年服部生まれ、喫茶ピーコック3代目店主。喫茶と文筆に勤しむA型乙女座ヒゲメガネ。企画や作文、図画工作が得意。

PEACOCK64



一見珍味



<https://peacock64.com>
PEACOCK64 服部